

1 日 時 令和5年7月27日(木) 午後3時から午後4時30分まで

2 場 所 磐田市役所西庁舎3階 304・305会議室

※ZoomによるWEB会議を併用

3 出席者 ○委員14名(欠席3名)

- ・公益代表4名
- ・被保険者代表5名
- ・保険医・薬剤師代表4名
- ・被用者保険等保険者代表1名

○事務局8名

- ・健康福祉部長、国保年金課5名、健康増進課2名

4 傍聴人 1名

5 会議の概要 (1) 開会

(2) 健康福祉部長挨拶

(3) 会長挨拶

(4) 議事

磐田市国民健康保険の現状と税率改定について

(5) その他

磐田市データヘルス計画の次期計画策定について

(6) 閉会

6 会議の内容

○定足数

委員17名中14名(委員の半数以上)の出席があったため、磐田市の国民健康保険事業の運営に関する協議会規則第6条の定足数を満たし、会議は成立していることを報告した。

○議 事

事務局(国保年金課)が「磐田市国民健康保険の現状と税率改定について」の説明を行い、議事内容について質疑応答及び意見書記入の時間を設けた。

<質疑応答・意見等>

委員

7億円の歳入不足があつて、1人あたり2万円を4回に分けて税率を上げてゼロにしていくというのが前回だった。今回の説明ではさらに上げないとゼロにならないということだが、当初と比べて増額となった一番の要因はどこにあるのか。

事務局

資料3頁が前回の改定の内容になるが、緑の折れ線グラフのとおり、市が県に支払う歳出部分の1人あたり事業費納付金の伸びを前回は見込んでいなかった。

資料7頁を見ていただくと、令和3年度当時だと左の黒い囲いの部分で、約7,700円、4,200円、870円と段々と伸びが減ってきていたが、それ以降事業費納付金は伸びていて、それを基に今後の伸びを推計すると、1人あたり毎年約2,800円伸びる見込みとなる。この推計を反映させて、支出が伸びた場合に必要な額を見込んだことが大きな要因。

委員

一番の要因は2,800円伸びるからということだが、少子高齢化などの影響もあつて保険税を上げざるを得ないということか。

事務局

事業費納付金の決め方は、医療費の給付分と後期高齢者医療に対して現役世代が支払う支援金分、介護保険の2号被保険者の保険料分があり、その3つを含めて納付金となる。それぞれ毎年1人当たり分が伸びているということになる。

事務局

前回見込めなかった事業費納付金を今回含めないといけなくなった事情として、令和4年4月から法施行された内容で、県が持つ基金を事業費納付金の急激な伸びの抑制のために投入してよいという制度ができたことがある。それを踏まえて県が出してくれた伸び率を使って、磐田市分を計算したのが7頁の表になる。

会長

8頁は、2年ごとに1万円改定で令和10年度におおむね解消する案、9頁は、毎年5千円改定で2.3億円まで削減する案となっている。9頁の「基金等を活用することで決算補填目的の赤字解消可能な額まで削減」の補足説明をお願いしたい。

事務局 4 頁を見ていただくと、令和 5 年度の歳入不足額全体で 7 億 2,700 万円あり、これが 9 頁のピンクの棒グラフ部分にあたる。「基金等を活用することで～」の意味は、4 頁の基金繰入金、つまり前年度決算で余った部分の貯金を基金に積み立て、歳入不足を補填するという制度上のルールを活用すれば、決算補填目的の一般会計繰入金 4 億 3,000 万円はおおむね解消できるということ。

会長 令和 10 年度でそこまでもっていければ一つの目標達成とみてよいのか。

事務局 国、県からまず早く解消しなさいと言われているのが、決算補填目的の一般会計繰入金。そこについては、「赤字削減・解消計画」を国に提出しており、令和 10 年度には解消したい方向としている。県の運営方針では、令和 9 年度には県内市町で決算補填目的の赤字はないとしているので、県からは令和 10 年度でなく令和 9 年度に解消するよう強く言われている。税率改定と合わせて、基金を活用する方法をとって、決算補填目的の赤字はなるべく前倒しで解消していきたいと考えている。

委員 基金は枯渇していると思っていたが、どれくらいあるのか。

事務局 2 頁で触れたとおり、令和 2 年度末には基金残高が約 7 万円と一旦枯渇した。その後、令和 4 年度中に令和 3 年度決算の剰余金を基金に積み、令和 4 年度末時点で 1 億 600 万円ほど基金を設けることができた。令和 5 年度は、基金から 7,700 万円ほど歳入不足に充てる予算となっている。

会長 11 頁のケース①で、現状 502,400 円から 1 人あたり年 10,000 円増額だと 603,600 円まで上がる。令和 5 年度から令和 10 年度で 5 万円しか上がらないと思うが、収入の伸びなども見込んでいるのか。

事務局 この表は、現在の磐田市の国保加入者全員でならして 1 人あたり 1 万円上がる税率にした場合に、このケースの世帯に当てはめると、現状から 101,200 円上がるというシミュレーションになる。

委員

事務局説明のとおり、県からは赤字解消を前倒しでやれと言われている。5 頁の表を見ると、磐田市の保険料水準が 35 位と一番安いということで、県平均ともかなり乖離している。磐田市は県内唯一の赤字繰入れの市町と理解しているが、もう少し厳しい早期の解消を目指す方がいいのではないか。

まずは県平均まで引き上げた上での議論になるのかと思う。その後は激変緩和という形で国に示す期限で解消ということでもいいのかなと。他の市町にも迷惑をかけているという部分もあると思うので、そのあたりの検討もしていただければ。

事務局

今出している 10 年度までの計画を早く修正するように県からは厳しく言われており、税率を大きく上げないと赤字削減に至らないというのは基本。併行して、基金を活用し、決算補填目的の赤字を減らすやり方も県と協議している。上げるべきものは上げるが、市民の皆様に過度な負担にならないようなやり方を事務局で検討しているところ。

委員

意見書の記入について、今回示されている令和 6 年度の改定に向けて、1 人あたりいくらというシミュレーションに対して、自分としてはどうした方が良いという意見を書けばよいのか。

事務局

今の事務局の案に対しての感想やこうした方が良いということがあれば書いてもらいたい。

会長

8 頁のおおむね解消よりさらに早めて令和 9 年度解消という意見があっても良い。これをベースに考えながら、2.3 億円まで解消する案が良いとか、0.5 億円まで解消する案が良いとか、1 年前倒しが良いとか意見があれば書いていただきたい。

委員

磐田市の保険料水準は県内で一番低いということだが、最終的な県としての考え方としては、県内全 35 市町同じレベルの保険料にすることか。

事務局

令和 5 年度までの県の運営方針は、県内各市町の保険料水準をできる限り合わせましょうというもの。最終的に

は、県内どこにいても同じ保険料水準にしたいというのが国、県の目標。まずは県内の差をなるべくなくしていく方向だが、最終的にいつまでにという期限はまだ示されていない。

委員

磐田市は令和 10 年度までに他の市町と同じような水準まで上げるように考えるということで良いか。

事務局

モデルケースで 11 万 1 千円の県内平均との乖離があるので、全体で県平均にまではもっていけるようにできればと考えている。

○その他

事務局（健康増進課）が「磐田市データヘルス計画の次期計画策定について」の説明を行った。その他全般の質疑応答の時間を設けた。

〈質疑応答・意見等〉

委員

前回の協議会で質問のあったお薬手帳を持っていくと医療費が安くなるという件について、詳しく調べてきたので情報提供する。

2016 年の調剤報酬改定の時に、当時は 6 か月以内、現在は 3 か月以内に同一薬局に再調剤で処方箋を持ってくると、服薬管理指導料 59 点 590 円が、45 点 450 円と 140 円安くなるということになった。患者が窓口で支払う金額は、1 割の方だと 10 円、3 割の方だと 40 円ほど安くなる。金額以上にお薬手帳の普及を図るという目的で、インセンティブを設けているということでご理解いただきたい。

以上で審議を終了し、閉会した。